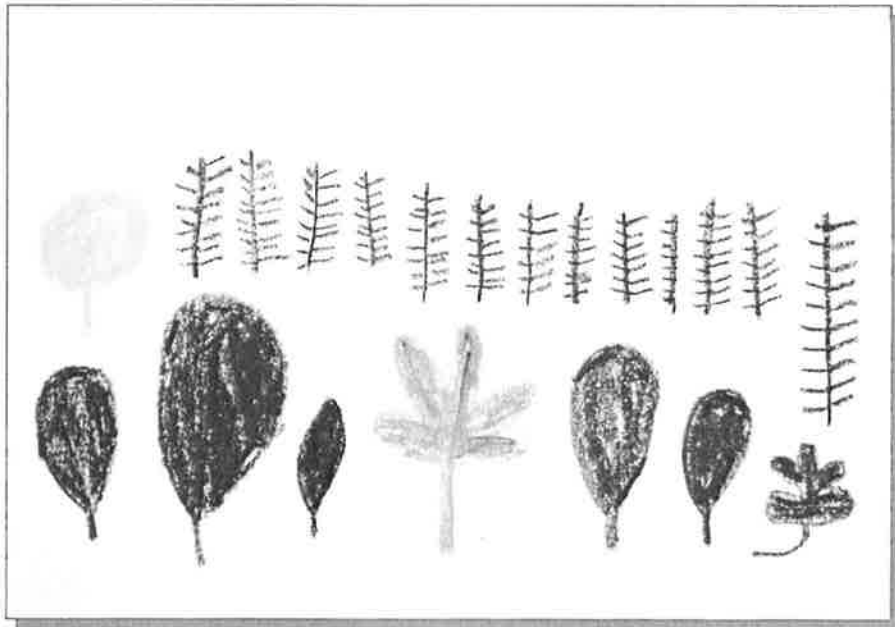


よんで元気になる体験談

あせらずあわてずすすもうや

Part.3



作成／平成 24 年度 わくわく子どもまつり in 岡山ドーム
公民館発達障害者支援グループ

は

じ

め

に

「わくわく子どもまつり in 岡山ドーム」の発達障害者支援ブース開催は4年目を迎えました。公民館クラブに参加するお母さん、親の会の会員、発達障害の子どもや大人に関わる支援者、公民館職員さんが協力し作成した体験談小冊子も、3冊目となります。

手に取った方に「私たちもそういう時期があったよ。」「大変なこともあるけれど、素敵なところがいっぱいある子どもだよ。」というメッセージを伝え、読んで元気になれる冊子を作りたい、との思いでスタートしました。

リクエストにお応えし、今年は、就労や余暇活動、仕事体験活動など、身近で活動している子どもの様子や情報、大人になった姿など、少しだけ幅を広げた内容となっています。

『よんで元気になる体験談 あせらず あわてず すすもうや 』

岡山市の中でも、発達障害のある子どもの保護者が少しずつつながり始めています。お子さんのタイプや年齢が違って、同じ思いをした親だから分かり合えるのかもしれませんが、あなたにあった居場所が見つかりますように。

目 次

| | | | |
|-----|-----------------------|-------|----|
| 第1章 | メッセージ ～公民館講座に参加して～ | | 1 |
| 第2章 | 親子で泣いたり笑ったり | | 3 |
| 第3章 | 就労あれこれ | | 12 |

第1章 メッセージ ～公民館講座に参加して～

少しだけ気持ちが楽に

発達障害と診断されたばかりで戸惑っています。どんなに親子で努力をしても健常者と同じように学校生活を送れない我が子…。この辛さを今まで付き合ってきたママ友や職場仲間には話すことができませんし、話しても健常者にはわかりません。親の会で同じ立場の人と話すことにより、少しだけ気持ちが楽になりました。(K)

一人で悩まないで！

一人でずっと悩んでいたけれど、親の会などで知り合った同じ悩みをもつお母さんに相談してからは、とても前向きになりました。今では、子どもに余裕を持って接することができ、確実に成長している姿を感じています。一人で悩まないで！口に出せば、必ず答えてくれる人はいます。(M)

ハッピーな自分であることが この子を育てる上で一番大切

発達障害の5歳の息子はまだまだ発達途中。状態がよいときが続くと普通の子と変わらないんじゃないか？と障害を忘れてしまうほど。しかし悪い波が再び訪れると日々の生活がそれは途端につらくなる。どんな波がきても、広い器で受け止めてあげたい理想と、受け止められるところかこちらが泣きたい状況になる現実。こんなに一生懸命やってあげてるのにわかってよ！という心の叫びがきこえるはずもなく、みにくい争いが続く毎日。

息子を変えよう、よくしてやりたいという気持ちは、時にお仕着せになり、今のままのあなたではダメという否定メッセージを送り続けることになる。まずは自分が変わることに、母親が幸せになることに、いつもハッピーな自分であることが、この子を育てる上で一番大切なのではないかと最近思う。

常に自分を試される子育て、未来を悲観しつつも日々息子は成長している。私も彼の成長のスピードに追い付くように、タフな精神力を築いていきたいと強く思う。(マリ)

親子ともども 日々成長していけたら

息子に発達障害の診断が出たのは3年前のクリスマスイブの日でした。泣きながらケーキを食べたのを覚えています。あの日以来、息子と私を支えてくれているたくさんの人たちに出会いました。小児科の先生、療育の先生、親の会のお母さんたち、公民館のスタッフの皆さん、etc… これらの人たちは、おそらく息子が健常児だったら出会えていなかっただろうと思います。息子にとって私にとって、本当に大切な人たちです。たくさんの人たちに息子を育ててもらっていることに感謝しながら、親子ともども、日々成長していけたらいいな～と思います。(N)

子どもの成長が嬉しい今日この頃

広汎性発達障害のある高2の娘。
幼い頃は、根気比べ・知恵比べの連続でしたが、最近は将来の目標に向かって熱心に勉強するようになり、早起きして自分でお弁当を作り、毎日、機嫌良くバス通学しています。
いろいろあるけど、こどもの成長が嬉しい今日この頃です。(M)

可能性を信じて見守っていききたい

親の会の存在には感謝しています。
息子が広汎性発達障害と診断されて早4年、療育も受けられず、また引越しも重なり小学校は特別支援学級で勉強することにしました。悩み苦しんでいた時に親の会の存在を知り、本当に救われました。同じ悩みを持つお母さんたちに話を聞いてもらうことで気持ちが楽になり、息子との接し方も変わって来たように思います。今は小4になり、反抗期真っ最中で毎日大変ですが、乗り切れるような気がします。成長はゆっくりですが、できることは確実に増えてきているので可能性を信じて見守っていける母でありたいと思います。(K)

一緒に成長 していきます!!

現在小学四年生になる息子は、広汎性発達障害です。
自分から息子の発達検査をお願いしたにもかかわらず、診断名が出された時は受け止められませんでした。
不安でいっぱいな中、講座に参加するようになって知り合った親御さんたちは、私にとってかけがえのない存在となりました。
悩みを一緒に考えてくれたり、アドバイスしてくれたり、勇気と元気を沢山もらっています。私も勇気と元気をあげられる人になりたいです。
そして、息子は絶対に使命ある子!!と信じ、一緒に成長していきます!!(Y)



第2章 親子で泣いたり笑ったり

小学校に入学して

長女Hが「広汎性発達障害」の診断を受けたのは2歳5ヶ月の時でした。最初は何も思わなかったのですが、次女が生まれ、「赤ちゃん返りにしては不安定な要素が多い」と思い、保健師さんに相談、市の「子どもの心の相談」に行き、そのあとクリニックを紹介され、診断を受けました。それからは月に2回ペースで次女を連れての療育通い。通うのは大変でしたが、Hは「お勉強に行く」と毎回楽しみにして参加していました。

保育園では伸び伸びとした環境の中で、元気良く通うことができました。「行きたくない」と言う事もありましたが、その都度担任の先生に相談し、本人と担任の先生で話し合い、解決策を見つけて問題を乗り越えていきました。

入学するにあたって、私の不安は募るばかりでした。保育園では細かい事まで先生が気が付いて、すぐに対処してくださる。学校は人数も倍に増えるし、先生の目も行き届かなくなる。療育もなくなる。Hがちゃんと学校に順応できるかどうか不安でした。

そこで、保育園の先生と一緒に生活面や園での様子を書類にまとめ、療育時の資料、検査結果も全て学校に提出しました。入学式の前日には特別に担任の先生を紹介してもらい、1年生の教室も見せてもらいました。入学式の流れも教えてもらいました。

そして迎えた入学式当日。1年生は、担任の先生、グッドスタートの先生、支援の先生の3人が付いてくださり、当面はHに支援の先生が付いてくださる、という事で安心しました。

そして、4月の終わりの初めての参観日。Hは落ち着きがありませんでした。斜めに椅子に座り、机の中から授業と関係ないものを出す、勉強している隣の子に話しかける…、支援の先生がずっと傍に付いていないと授業が受けられない状態でした。「これはひどい」と思った私は、発達障害の事に詳しい知り合いの先生に相談しました。すると、「真似をするのが得意な子なので、先生の言う事を素直に聞いて指示通りにできる子に前の席に座ってもらって、お手本を見るような席の配置にしたらいいよ」とアドバイスをしてもらいました。

別の日、担任の先生に面談をお願いし、参観日の時に気になった事をお話すると、「お母さん、違うんです。参観日の時はこちらもびっくりするくらいHちゃんはだらけていたんです。いつもはちゃんとできるんです。お母さんがいるというので甘えが出たんだと思います。最初はいろいろ資料もいただいていたので、Hちゃんに支援もしてたんですけど、Hちゃんは自分の事はちゃんと自分でできるし、授業でもちゃんと発言できています。見守るだけで充分できるんです。もっと手のかかる子は他にいます」と言われました。私の心配とは裏腹に、Hはちゃんと成長していました。親の見えていないところ

で、Hは自分なりに学校に順応していったようです。

現在では片道30分の道のりを、毎日班の上級生と一緒に並んで歩いて通っています。登校班の集合場所までは私と一緒に歩いて行きます。家から集合場所までは、わずかな距離ですが、そこを私と一緒に歩く事でHは気持ちの切り替えをしているようです。

これからもいろんな事があると思うけど、自分で前を向いて歩いて行ってほしいな、と思います。

(H. M)

これからも伝え続けていきたい

私は現在、小学校1年生の長女と3歳10ヶ月の長男の母親です。二人とも軽度発達障害をもっています。

一時期は落ち込んだり、子育てを苦しむことも正直ありました。でも、今は子どもとずっとずっとラブラブでいたいと願っていた私に、普通より何倍も幼い時期を味わえるように、何倍も子育てで立ち止まり考えられるように、と神様が思ってくれたのではないかと感じるようになりました。きっと二人は神様からの私への最高のプレゼントなのだ！と。それからは個性的な二人の育児が楽しくなり、いろんなつまづきが笑顔で受けとめられるようになりました。

現在、長男のブームは傘と長ぐつです。どんな晴天の日でも愛用しています。彼には理由があるのです。晴れの日には日光をよけるため、風の日には風をよけるため、雨の日はもちろん雨をよけるために必要なのです。なので、私は晴天の日には雨傘をさす彼をあたたかい目で見つめます。しかし、周囲の目はそうはいきません。

毎朝、長女の登校班の集合場所までは付き添うのですが、もちろん彼は傘と長ぐつについてきます。子どもは素直ですから、近所の子ども数人からかわれます。「おまえは天気もわからないアホか？」と。長男は意味が分からないのでニコニコしていますが、そんな日が続く、長女に変化が出てきました。朝、いつものように玄関をあけると、ランドセルの肩ベルトをつかみ、「もうこなくていいよ。またいじわるいわれるから」と言いました。

私はハッとしました。長女も皆にからかわれたりして、つらいのに、弟のことを思い、一人でがんばろうとしているのだ！と。私は娘に聞きました。「Sちゃん（弟の名前）が傘をさして長ぐつをはくこと、Uちゃん（娘の名前）は恥ずかしい？」娘はキッパリ答えました。「ううん。べつにいいと思う」

私は涙が出る程うれしい気持ちを抑え、「ママもいいと思う。みんなに迷惑をかけない、ふつうじゃないことは恥ずかしくなくていいと思う。好きなものは好き♡って言うたらいいと思うの。みんなと同じじゃないことは悪いことじゃない。胸を張っていいんだよ。そして、イヤだな・・・と感じた時は、そうじゃないんだって伝えてみたらママは

いいと思うよ」と伝えました。

それから毎日、私は皆に伝えます。「Sちゃんは天気がわからないんじゃないんだよ。晴れの日も日除けなの。傘と長ぐつがとっても大好きなんだよ。みんなにもとっても好きなものあるでしょう？こんなに大事にもらえる傘と長ぐつ、とってもよろこんでいると私は思うの」

それでも毎朝、同じようにからかてきます。でも、我が子から不安な表情は消えました。傘と長ぐつは雨の日だけ使うもの。そうしたらもっと簡単かもしれません。

でも二人が思春期になり、自分が周りとは少し違うことを自覚した時、自分を恥じたり、閉じこもったりしてほしくないから。大丈夫だよ！自分らしく大きく手をひろげて笑顔で歩いていいんだよ!!って言ってあげたいから。これからも伝えつづけようと思っております。そして願わくば、見た目ではわかりにくい我が子を含めた軽度発達障害の人たちが少しでも理解を得て、今より少しでも生きやすい社会になってほしいと、私は思います。

(M. K)

「自分らしくいればいい」そう気づいた娘の成長

今年中学1年生になった娘は、小学1年生の2学期（運動会のあるころ）から学校を休みがちになりました。3学期には教室に入れなくなり、とうとう学校に行けなくなりました。小さい頃からかんしゃく持ちで、幼稚園でも門を乗り越えて家へ帰ってきいたりして、なかなかこちらの思いが通じない、育てづらさを感じてはいました。こんな子もいる、これも個性かも、とのんきに構えていた私も、これはおかしい、まわりの子と何かが違うと感じはじめました。

病院でアスペルガー症候群との診断ができました（現在は広汎性発達障害）。はじめて聞く診断名に頭の中は、それって治る病気？障害？どうしてうちの子が…との思いでいっぱいでした。二次障害の出ている娘にドクターは「今は本人のしたいようにさせてあげてください」とアドバイス下さいました。

「学校には怖い人がいる。嫌な音がする。」妄想や幻聴に怖がる娘はトイレも寝るときも私から離れられなくなりました。親の私が出来ることは無理をさせないことだけでした。

しかし、なかなか娘の心に寄り添えない私に、娘の問題行動は家庭内でエスカレートしていきました。娘は気に入らないことがあると物にあたりました。テレビを壊したり、照明器具を壊したり、かべに穴を空けたり、車のフロントガラスを割ったり…。この子はどうなってしまうだろうと、先の見えない毎日でした。

2年生になり、通級指導教室を利用させてもらうようになりました。困ったことがあると下を向いて固まってしまいう娘に、担当の先生は辛抱強く接して下さいました。3

年生になり、ようやく慣れてきた通級の担当の先生がかわり、通級にも行けなくなりました。その後、適応指導教室を知り、相談を受けました。ゆったりとした環境が娘には合ったようで、少しずつ時間と共に、適応指導教室が娘の居場所になっていきました。

学校以外にも娘の居場所をさがそう…少しずつ出来ること、行ける場所を広げていきました。障害に対しての本を読んだり、参加できる会に出て行って先輩のおかあさんたちの話を聞いたり、私も外へ出ていくことで少しずつ心が軽くなり、子どもと向き合いかわることも前向きな気持ちでできるようになりました。

娘の留守番も30分、1時間とすこしずつ長くなっていきました。帰ると家中大変なことになっていましたが…。

ある日、いつもより部屋が荒れていない状態、でも部屋に閉じこもったままの娘の様子に、何か我慢できないようなことがあったけど、お母さんが帰ってきたらどうにかしてくれる。そう思って部屋でじっと待っていたのだと気づきました。ドア越しに、私を感じたことを話し、そう思って部屋で我慢してくれていたのでしょうか？と問いかけたとき、娘は部屋から出てきて素直に「うん」と頷いてくれました。こんな母でもお母さんがどうにかしてくれると信じて頼ってくれた娘を本当にいとおしいと思い、娘の心がわかる親になりたいと思いました。

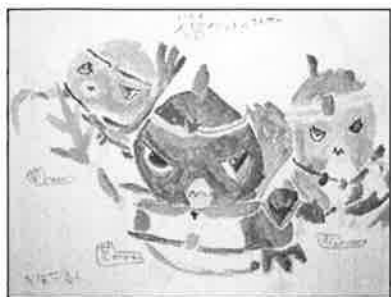
今だったら、あの時の娘の行動の意味は…とわかることがたくさんあります。受けきれなかった母の横で、娘はその時その時どうしたらいいかを一生懸命考えて娘なりに行動していたのです。親にとっての困った子は、実は困っていたのは娘の方だったのです。娘はわからないことを一生懸命考えて、娘なりに行動していたのです。

フリーマーケットに出店はできても、お客としては参加できない様子には、自分の居場所がはっきり定まっていないときは不安が強いことがわかりました。

外出先でトラブルが多かったことも、何が起こるかわからない不安からで、スケジュールがわかっていたら安心して出かけられることもわかりました。

美容院で髪を切った後必ずパニックになるのは、切る前と切った後の自分の変化を受け入れることがすぐにはできないからでした。今では自分で髪を切るようになりました。

消しゴムが使えないのは、元通りのきれいな白紙にもどらないからです。娘はゲームの漢字ソフトで漢字を覚えました。間違えてもさっときれいに消えるところがよかったようです。



強かったこだわりは成長と心の安定と共に、妥協できる事が増えてきました。消しゴムが使えるようになり、今は、漢字はノートに書いて覚える方が好きだと言っています。なかなか完成しなかった絵も、頭のイメージに技術が追いついてきたようで、最後まで仕上げる事が出来るようになりました。夏休みの作品では良い賞をいただいて校長室で校長先生から表彰していただきました。

絵を描いたり、手芸の作品を作るようになって、生活も落ち着いてきました。中学入学前には、今までのことを振り返り、「小学校では、みんなと同じようにしないといけないと思ってしんどかった。適応指導教室に行って楽になった。自分の思うように、自分らしくしていればいいんだとわかってきた。」と伝えてくれました。

中学校は自分で見学に行って決めた娘は、入学式の前日、リハーサルをして「これなら出来そう」と言いました。その言葉通り、入学式から今日まで2日休んだだけで、通学しています。1学期終わりの三者懇談で、娘は心の満足度を数字で表しました。国語10点、数学10点…、全ての教科が10点満点で10点、部活、友達や、きょうだい、家庭…だんだん10点を超えて50点、100点と点数が上がってきて、今は毎日毎日がとても楽しいと感じていることも教えてくれました。

一つ下の学年の妹と今年小学1年の弟も広汎性発達障害の診断を受けました。日々いろいろなトラブルがありますが、娘が「こういう気持ちなんだよ」「こうしたらいいよ」とまだまだ表現できない妹や弟を心の代弁をしてくれたり、勉強に関しても「こうしたらわかりやすいよ」と弟の教材を作ってくれたり、妹の問題をつくってくれたり、とても上手にかかわってくれています。

先日は家庭科でりんごの皮剥きのテストがあるから、と剥いてくれたりりんごを一切れずつ家族に配ってくれました。「疲れたー」とつぶやいた私の後ろにまわって肩を揉んでくれました。これが本来のこの子の姿なのだなと穏やかな顔で生活している娘を見て思います。

物が壊れ、いつ娘が切れるかと腫れ物にさわるようにピクピクして生活していた時を思うと、彼女の成長が本当に嬉しいです。

自閉症協会、お仕事体験の会、余暇活動の卓球、囲碁教室…、子ども達の行ける場所、私の学びの場として活動の場を広げてきました。今年は学区の仲間と親子で体育館をかりて遊ぼうという会を立ち上げました。町内の方にも子どもたちの特性を理解していただき、町内の親睦旅行にスケジュールを持って参加したり、夏祭り秋祭りでは小学生に混じって行燈に得意の絵を描いて出展させてもらったり、妹弟の参加する子ども会でもできることで活動させてもらっています。町内会長さんに囲碁教室に参加している話をすると、町内でもと囲碁の日を作って下さり、囲碁を通して子どもたちとかかわってくださる方もいます。何をどうしたら子どもたちが楽しく参加できるが増えるか、そう考え行動していくうちに私の世界もひろがりました。おかげで味わい深い人生になっています。同じ思いで悩んでいる人、困っている人とつながっていきたい、手を取り合って支え合いたい、そんな思いで出来ることから活動している毎日です。

(ともさん)

息子の仕事体験活動

仕事体験活動を始めて丸3年。出来なかったことや、出来るようになったこと、いろいろありました。

第1回目の前日、初日を勘違いしていた息子は「仕事体験なんて、行かん。オレは今日学校に泊まる。学校に泊まるんなら、行かんでもいいから」と自分にしか分からない理屈を並べ立て、泣きながら学校の先生に訴え、午後の授業を全て潰しました。「今日じゃないよ。明日だよ」と言うと、コロッと態度を変え家に帰りましたが、“明日はどうなるんだろう…”と私の方が不安になりました。ところが、泣いて叫んで訴えて不安がなくなったわけではないでしょうに、前日のパニックは何処吹く風で、第1回目は驚くほどスムーズに終わりました。そしてそれは受け入れてくださったUさんのおかげだと思います。

半年後の終了時、「公民館なんて行かん!オレはUさんのところで終わりにする!」と言い張っていましたが、公民館には1年も行かせて頂きました。公民館で驚いたことは、職員の皆さんの歓迎ぶりです。私はそれまで“自分の子だから、息子の自閉っぷりも愛せるけど、他人だったらどうだろう?”と考えたとき、ないな…とキッパリ思えました。それで「T君が来るのを楽しみにしている」と言われた時、“空耳かしら…?”とか“他に楽しみがないのかも…?”とまで考えてしまいました。(スミマセン)でも、何度も言ってもらっているうちに、もしかしたら私は自分自身で息子の評価を下げてしまっているのかもしれないと思うようになりました。そして1年後、例によって「次のところは行かん!オレは公民館で働くから」

次は市内の図書館と今現在は製菓会社です。前の2ヶ所と違うところは毎週同じことを繰り返すということです。図書館では本の整理、製菓会社では袋のラベルシール貼りです。飽きやすいので根を上げるかと思っていましたが、むしろ特性に合っていたのかもしれない。

初日の前日以来、行き渋ることなく、楽しみに週1回の仕事体験に通っています。そして「次は行かん!」は言わなくなりました。これからも続いていくということが分かったのでしょう。仕事体験活動をしなければ、たくさんの出会いはありませんでした。今まで受け入れてくださった企業の皆さま、サポーターの方々のお人柄に感謝いたします。

(T. K)

日々考えること

支援学校中学部2年男子の子育て中です。毎日の生活も手一杯ですが、保育園、小学校、中学校と進路を考えるのが大変でした。これからも不安です。問題行動と呼ばれるものは形を変えずと続きますが、親の方も特性を持っている気がしますので、お互い様かしらと思ったりします。親が母子家庭で頼りない分、周りの方々に本当に助けられています。

低学年のころは公民館の学童保育のほっとスペース放課後に通わせてもらい、高学年になって、ほっとスペース放課後から生まれた公民館のクラブに入って、親の孤独感が癒され、精神的にらくになりました。つらい時に他の会員の方の会話を聞くだけで、心にあたたかいものをもらっています。余暇の活動に卓球・囲碁をさせてもらい、親睦旅行でいろいろなところに体験旅行をしました。

お仕事体験では、一緒に付き添ってくれるサポーターの方にその方の人生観に基づく仕事のマナーみたいなものを教えてもらっています。また働く場所の企業さんにやさしく見守ってもらっています。いいことばかりではありませんが、また、あまり前向きにも生きていませんが、子どもに笑顔をみせて生活できているかなと思っています。

(チューリップ)

目標は世界大会！

娘が8歳の時にスペシャルオリンピックに参加して、今年で8年になります。毎日学校から帰るとゲームばかりしていますが、休日は練習に頑張っています。

スペシャルオリンピックは、知的発達障害のある人達のスポーツプログラムです。

最初、水泳の岡山チームに参加していましたが、新しいプログラムが増えて現在は陸上とテニスにも楽しく参加しています。陸上は岡山で行われているマラソン大会に申し込んで参加しています、イベントも楽しいです。

記録会や大会があると、普段よそ見してうろうろしているのに別人の様にしっかり競技するので、本番に強いね。と皆から言われます。

地区大会は毎年有りますが、4年に1回ナショナルゲーム（国内大会）が夏季と冬季に行われ、その中から世界大会へ出場される方が選ばれます。岡山からも2人出場されました。2年前に夏季大会が大阪で行われ、娘も陸上 50mで出場して1位になり、表彰台で有森裕子さんから金メダルを掛けていただき、カメラに向かってポーズをとっていました。

スポーツを通じて、練習だけでなく発表する場があり、色々なことを経験出来て自信につながった様です。次回目標は世界大会に行けたら良いなと思っています。

(H. I)

少し大人に、おしゃれに ～息子の仕事体験活動～

高校生の息子は思春期を迎え、友達と自分とを比べて、自分自身のこと悩んでいたと思います。自分が思うように友達と話すのが難しい。発達障害とは？ 自分とは？ 少しみんなと違うのではないか。彼はゆっくりですが、自分のペースで真面目に真摯に物事に取り組みます。できることはたくさんある。もっと、自信を持って欲しい。楽しんで欲しい。そのためには自分がみんなの役に立つことや必要とされることを体験することが必要だと感じていました。役に立って褒められると私も嬉しくなります。心地よいのです。でもいつも顔を突き合っている家族の中では限界があります。親は一生懸命になりすぎて、ついつい感情的になることも。

そんな中、仕事体験活動のことを知り、まず親の私から参加しました。仕事体験を通じて成長してきた子どもたち、先輩のお母さん方、そして子供たちのことを理解して下さるサポーターの皆さんに出会いました。

息子も一緒に活動に参加することとなりました。最初は不安で恥ずかしくて緊張していましたが、しっかり自己紹介もできました。私がいろいろ活動内容を説明して参加を勧めましたが、今から思うと自分から何かやりたいという決心があったと思います。少しずつ皆さんに慣れたころ、仕事体験が始まりました。パソコンを使っていろいろと調べることが好きな彼には合っている仕事です。仕事のやり方、進め方を職場の先生に教えてもらい、静かな部屋でパソコンを使う仕事をやります。週1回、1時間半の仕事体験ですが、パソコンソフトにもすぐに慣れて着実に仕事ができたようです。パソコンのスピード検定を受けていたことも役立ちました。サポーターの皆さんが横についてくれるのも心強かったのではないのでしょうか。サポーターの方々から仕事ぶりを評価してもらい、褒めてもらいました。はや半年が過ぎてここでの仕事体験も一区切りです。途中、お休みをしたこともありましたが、最後までやり遂げました。いろいろなことができました。たくさんの人に助けてもらい、教えてもらってできました。仕事体験をしていろいろな大人の方とふれあうことで、少し大人になれたような、おしゃれになったような感じです。仕事体験で知り合った仲間ともいろいろな話もできます。ゲームや趣味のこと、学校のことなど。さらに本業の学校のこと頑張っています。

自分のペースを大切にすること、困った時は人に聞く、相談することも大事なことがわかりました。趣味の時間をもつことや、学校のほかの活動も楽しい。また違う職場で違う人と一緒に、新たな仕事に挑戦します。また戸惑うこともあるかもしれないが、また違う自分が見つかるでしょう。三歩進んで二歩下がることもあるでしょう。焦らず、あわてずに前に進もうや。親としてもそうでありたい。そんな子どもたちを理解してくれる人の輪が広がるように願っています。

(M. H)

出会い つながり 力をおかりして

長男は高校3年生。駅前のサポート校に通いながら、教習所に通っています。金曜日は午後3時からNPO主催のフリートークにも毎週参加。また、月1回スポーツ教室や、学習会から発展した会にも参加しています。それから、3か月に1度、医療機関で、カウンセリングを母子で受けています。体を動かすことは好きなようで、時々ジムにも行っています。

こうやって書き出してみると一つずつ、階段を踏みしめるようによく登って来たなと思います。よくしゃべってくれるようになり、よく笑うようになりました。彼は中1のころから定期テストのたびに、下痢を繰り返すようになり、中2の2学期からとうとう学校へ行けなくなりました。そのころは、自分の中に閉じこもってしまいほとんど家でゲームをしていました。それでも何とか、地元の中学の教育相談室に朝1時間～2時間、清輝橋の教育相談室に週2回1時間だけ通っていました。

私にとって救いだったのは、公民館講座での出会いと、NPO主催の学習会です。

彼が中2の夏に、アスペルガーの診断をいただきました。中3になって、受験勉強をNPOの学習会でお世話になっていましたが、その場に来て下さった専門家の方の一言で、彼には試験を受けること自体無理だと気づき、作文と面接で入学できるサポート校へ行かせることに決めました。作文は教育相談室の先生に手伝っていただきました。

サポート校では、彼の状態を見ながらタイミングよく無理強いせずに、少しずつ引き上げてくれています。そして彼の今の目標は、就職。学校の方からの勧めでハローワークに行ってきました。母が付いて来たことはマイナスだとはっきり言われたのですが、彼が人とコミュニケーションを取りにくいことと、彼が積み上げてきた職場体験を伝えておきたくて付いていきました。

彼が中3の時に、半年間公民館で職場体験をしました。ちなみにその後は妹、弟が続いています。直島の喫茶店を貸し切りで喫茶体験もしました。高1の夏は、お弁当屋さんで1週間職場体験をさせてもらいました。去年の秋は、秋の収穫祭のお手伝いにスタッフとして参加。今年の春は短期アルバイトで倉敷音楽祭に参加していました。そのお蔭で、最近では人と話す仕事がしたいと言い出しました。

ハローワークの方が、「とてもよい成功体験を積み重ねていらっしゃいますね。その成功体験があるから今の彼があるのでは…」「これだけ初対面の人と敬語も使えて話ができれば、どこかに就職できそうですよ」と言ってくださいました。

サポート校からもハローワークに協力依頼があったようで、11月から学校と連携して動いて下さるとのこと。ありがたいことです。

この就職難な時代に彼に合った仕事先が見つかるのかどうか不安ではありますが、彼がいままで歩んで来た軌跡は、じっくり、ゆっくり、時には止まったりではあったものの、信念のある心豊かな大人の人たちとの出会いに恵まれたお蔭で、ここまでこれたのだと思うのです。だから、ここから先も彼を信じてみなさんの力をおかりしながら寄り添って歩いていくことができれば幸いです。

(かずちゃん)

第3章 就労あれこれ

作業所での仕事をとおして

息子は、今、20歳です。1歳半検診で発達障害を疑われ、3歳の時に「自閉傾向がある」と診断を受けました。その頃は、多動が激しく、片時も目を離せないような子でした。

医師からは多動は5歳がピークと告げられ、今よりまだ激しくなるのかととても不安な気持ちになったことを思い出します。確かに5歳を過ぎると多動の激しさが少しずつ治まってきたように思いますが、小学校に入っても中学生になっても相変わらず走り回り、何かとパニックを起こす日々が続きました。

特別支援学校の高等部在学中に何箇所か作業所で実習をさせていただきましたが、落ち着きの無さとおしゃべりを止められないことをいつも指摘され、卒業後、作業所に行くのも難しいのかと不安になったものです。

しかし、何箇所めかの実習では、おしゃべりを止められないことを受け入れていただき、「そんなに気にならんよ」と言われました。息子も、その作業所の雰囲気が入ったようだったので、高等部卒業後は、そちらでお世話になることに決めました。

学校生活を終えて1年半が過ぎましたが、息子は、毎日、元気に自転車で作業所に通っています。作業所は「紙製品作り」「ドッグフード商品の袋詰め」「弁当配達、容器回収」を主な作業としています。息子は、袋詰め作業のうち、封かんの圧着（シーラー）の作業や賞味期限の印刷（ホットプリンター）の作業を主に担当しています。最近では、作業自体は任せられるとまで評価していただけるようになりました。相変わらず、落ち着かなくなるとおしゃべりが増えたり声が大きくなったりするようですが、一日の作業の手順を紙に書いて示すことで見通しを持ち作業できるようにしたり、作業する席を工夫し集中して作業できるようにしたり、様々な配慮をいただいているようです。また、「待つ」ことがとても苦手なのですが、「待つ」理由を具体的に伝え、見通しを持って「待つ」ことが理解できるように支援をいただいています。

通いだして2ヶ月ごろから、作業所との連絡ノートに一日の作業を自分で書くようになりました。高等部時代の実習ノートの名残のように思います。「ホットプリンターが んばりました。」などと、多い日はA5版のノートに2ページ以上びっしりと書いています。これもこだわりの一つでしょうが、作業所に聞いてみると内容はほぼ正確なようで、作業の様子はよく分かります。家に帰ってから書くこともあります。作業が始まる前（がんばる前ですが）に、こっそりと書いてあることもあるようです。

作業所に通い始めて、工賃をいただいています。工賃をいただくと、小遣い帳に書いたあと財布にしまいこみます。財布はいつも持ち歩いているのですが、自分で何か買う

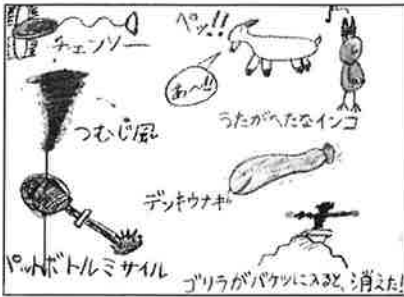
ことはあまりありません。ただ、こだわりのある「連絡ノート」と「小遣い帳」だけは無くなる前には自分で買っていますし、最近は療育キャンプや交流会などの行事の参加費も自分の財布から出してくれます。この経験から、お金を使うことやお金をもらうこと、また働くことの意味を徐々に理解してくれたらと願っています。

息子とはもう20年の付き合いになります。行き当たりばったりで、息子の後を追いかけてきましたので、以前は、先輩方の話や書かれたものを読むと「そうすれば良かった。」とか「あの時に間違っていたのか。」とか考えて落ち込むこともありました。「あ

とを追うしか能がない」と言われたこともありました。

でも、息子にとっては十分ではないかも知れないけれど、その時できることはやってきたと思うことにしました。この先もうまくできないだろうけど、出来るだけ息子の力になれるよう、もう少し息子と付き合っていこうと思っています。

(H. H)



これからの方へ パート. 3

①次男の高校～社会人編

今年20才。定時制高校を4年かけて卒業し、4月から正社員で働いています。

小3から中3まで不登校。中2の夏休みに広汎性発達障害の診断が出たので「本人に合った環境が良かろう」と特別支援学級を見学し中3から移籍する。「車の免許証は取れないかも」心配するほど注意欠陥が目立っていた。

小3の時、器械体操のスポーツ少年団に入っていたが、不登校になり外出を嫌がり辞めた。4年生になり、兄のいた少林寺拳法のスポ少に強引に入れた。最初は嫌がっていたが、日々の練習具合と、出席日数の条件をクリアして受ける昇級試験は、明確な目標と達成感で、中1の春には黒帯が取れ自信になった。中学ではバドミントン部に入ったが、丁寧語で喋るので同級生から浮き、不登校なので話題も合わず気まずくなる。また、他の部員は朝練もして差が開く一方で行きにくくなり、嫌がり始めたので、親子で話し合い「嫌いになってしまう前に辞めよう。しかし、部活動は学生の特権です。どこかに入ります」と社会部に移った。幼稚園や小学校で交流のあった生徒が部員だったのですんなり打ち解け、一人っ子の家に毎週末集まり、夏休みなどには宿泊もさせてくれた。別々の高校に進学してもそれは続き、回数は減ったものの、メンバーが大学生になった今も続けている。

中学校は、部活以外はほとんど学校に行っていないので、高校生活をスタートするにあたり『薬の手助けを借りて不安を取り除いて楽にスタートさせるべきか、とりあえず行かせてみるか』と悩んだが、まずは薬を使わず様子を見ることにした。入学式後のH

Rの後、担任に「中学校からの書類でご存知とは思いますが、この子には発達障害があります」と話すと、すっとかがんで目線を合わせてくれ「さっきの話で分からないことがあったかな？いつでも、何でも聞いてくれたらいいから」と優しく言って下さったのでとても安心し、これなら大丈夫だと思った。

「経験者だから」と先生に勧められバドミントン部に入り、部長に誘われて生徒会執行部に引き上げてもらい、副議長を経験した後、立候補して議長に選出された。先輩の引退後は部長を引き継ぎ、4年生の冬には無事運転免許証を取得。卒業式では『4ヶ年間皆勤賞』の表彰を受けたが、秋からの就職試験に3度落ち、まだ進路が決まっていな不安の中での卒業だった。母は2月に発達障害者の雇用制度について職安に相談に行き、次に受ける企業がダメだったらその方向からの就職も検討していた。3月中旬にやっと食品製造会社から内定通知がもらえたので、彼に「実は職安に相談に行っていた」と話すと「ここがもしダメでも一般就労したい」と言い張った。

4月からの3ヶ月間は試用期間なので、毎日がドキドキだった。期待される程には仕事が覚えられず、2ヶ月で配置転換になり、さらに2ヶ月後にまた配置転換。「せっかく仕事を覚えたのに1からやり直した」と言いつつも、「なんとしても内定が欲しい」とやっと決まった会社なので、頑張っていたが、あまりにしんどそうだったので、「会社に説明をしに行こうか」と聞くと、いつも「自力で頑張る」と言うので見守っていた。半年が経ち、「もう大丈夫かな」と思っていたら、また配置転換になった。今度の内容は年末の繁忙期に向けての増員ということなので、その後、また配置転換になるだろうが、異動の度、母から「いろんな仕事を体験させてもらえ、未来の工場長だね」と励まされている。

最初の残業代で携帯ゲーム機を、翌月にはテレビゲーム機を購入し、母を唾然とさせた。休みには同僚とカラオケに行き、夜勤の方とはご飯を食べに行ったり、タバコを教えてもらったりと、人間関係も築きつつある。練習時間が学校と重なり辞めていたスポ少にまた行こうか、それとも別の武道を習おうかと検討している今日この頃である。



母の日に送られたカーネーションの絵

②長男の高校～社会人編

昨年度より1年経ったので、現在22才。社会人4年目です。

級友とのじゃれあいが苦手な、休み時間がしんどくて小4から中2まで不登校。中3になり、クラスにスポ少の仲間がいたこと、中1の2ヶ月間在籍していたパソコン部にすんなり受け入れられたことが居場所になって、遅刻と欠席を繰り返しながら少しずつ学校に戻っていった。

高校入学直後に「ADHD の可能性がある」と担任に伝えたと、前年に研修があったらしく様子を見守ってくれた。高1の夏休みに広汎性発達障害の診断が出た。その半年前に発達障害の診断が出ていた母は、彼にすぐに告知をし「君達はパイオニアです。時代を切り開いて行って下さい」と、前向きに取り組むように話したら「学校の図書室に発達障害関係の本が複数置いてあった」と嬉しそうに教えてくれた。

入試という“ふるい”を通過してくるので、学力や目指す方向性(商業や工業、福祉などの似た子の集まりの高校生活は、今までのようにしんどくはなく、級友から「おっちゃん」と慕われ、面倒みの良さを発揮した。多少遅刻はあったが、放課後に先生を手伝って、奉仕活動をする事で帳消しになる制度に救われた。スポ少からの流れで少林寺拳法部に入り、また、青少年赤十字(JRC)部にも所属。最寄りの駅の清掃活動や献血ルームの手伝い、「あしなが学生募金」の街頭募金活動などをし、青少年赤十字岡山県役員会で高2・高3の前期に会計を、高2の後期には会長をさせてもらい、日本赤十字社岡山県支部の方に支えてもらいながら、どんどん自信をつけていった。

県外企業に就職が決まり、入社日に健康診断書を持参するよう指示があった。発達障害を申告するべきか悩み、親子で話し合い「まだまだ社会的に理解してもらえないといえない。先入観を持たれるよりは、本人の様子をみてもらって、困った時点で説明しよう」と決めた。

年度末に所長、副所長との面談があり、持病の話をしてくれ「他に言うことはないか」と聞かれ、迷ったが、思い切って発達障害があることを打ち明け「苦手なことには、こういう対策をしている」と説明した。所長の反応は「ほう、ほう」という返事で、後で調べるような感じだった。その後、特に何も言われることもなかった。誰もが経験する程度の苦勞はあったが、1年後、神戸へ転勤になった。今の職場では周りの人に少しずつ自分が発達障害であることを打ち明けている。8月には同僚の4人で富士山に登頂した。事前に六甲山に練習に行くなど、いろんな体験をし、今を楽しんでいる。

(ははねこ)

「たでたでがきつー」

色白でりりしい顔立ちに誕生の時には希望と期待に満ちあふれていました。しかし、笑わない、目が合わない、しゃべらない、ひょうひょうとしていて何をやり出すかわからない、しつこくこだわる、パニック、多動、寝ない…。家族皆がヘトヘトに疲れ、私自身も育児の楽しみなど全く感じる事ができない日々でした。

そんな折、自閉症と診断され、療育を受ける事になりました。とにかく疲れている私は、最初は何とか旭川荘まで連れて行かなくては！という義務感だけで行っていました。ところが、数ヶ月ほど経過した頃「こりろ」（これが欲しい）としゃべったのです。その夜、大好きな月を見て「出た出た月が一。」と、歌ったかと思うと、「たでたでがきつ

一。」と突然さかさま歌まで歌い出して…。家族で久々に大笑いしました。その日から単語がたくさん出るようになり、それは幼児言葉でも岡山弁でもなく、いきなり正しい日本語だったり、CMのセリフだったり…。そして、私達のほうもようやく本気になり、山登り、スイミング、ピアノ、お絵描き、そろばんと色々な事に挑戦し、様々な体験にも出かけていきました。その頃には、本人もとても真面目に頑張る子に大変身していました。友達と関われるようになると、また様々なトラブルもありましたが…。

お蔭様で私は療育機関や学校の先生方、そして様々な保護者会の方々と出会い、今でもずっと支えていただいている事が私の何よりの財産だと思っています。本人は今成人となり、一般就労を目指していましたが、社会は大変厳しくて、A型就労で毎日頑張っています。これからの社会がもっとやさしい社会になっていけるよう願ってやみません。

(FUKU)

兄弟の育ち合い

子どもは一人ひとり味が違いますが、味が違いすぎる自閉を持つ子どもと他の兄弟を育てるのは、なかなか力の要ることでしょう。

障害児の療育キャンプに我が子を見送りに行った時のことです。ハンディのある弟のことでいじめにあい、不登校になり、ストレスが身体症状に出ているというお姉さんに出会いました。私は大変ショックでした。

ハンディを持つ弟の為に姉までが健常児でなくなるなんて、私は絶対そうさせないと、その時にきつく腹をくくりました。

わが子は可愛いです。手がかかるほど、よけい可愛いです。けれど、遅れはあってもゆくゆくは大人として生きていく力をつけなくてははいけません。そして健常児の兄弟には、支えてほしい。親亡き後を託したいと、けれどそれはあまりに荷が重すぎます。

ハンディがある子が一番上なら、お兄ちゃんとして立ててあげたい。ハンディのある子が下ならば、守ってあげたいし教えてあげたいしと、思いが次々と果てしなく広がります。

今現在 39 歳 37 歳 36 歳と、大人に育った息子たち（長男、次男）は立派に成人しました。

長男は現在、大学の講師として奉職し、海外に留学中、次男は地元の企業で勤務しています。

この次男は私と三男（本人）のありとあらゆる面倒を引き受けてくれています。

三男は今年3月まで通所していた施設を卒業し、近隣地域に新しくできたケアホームに通所し、5月より入所しました。その説明会にも次男が出席してくれて長男に連絡、そして長男と次男が三男の入所に「OK」を出し、入所を決定しました。

今、三男はケアホームに大分慣れ、食事の改善が功を奏して、減量することができま

した。こういった子どもは本当に食べるのだけが楽しみなので、肥満になる傾向が強い
ですね。肥満は成人病の呼び水になるので本当に痩せてくれてとっても良かったです。

長男次男が居てくれて本当に心からよかったとしみじみ思います。

私はともすれば、三男にかかりっきりになりそうな中、本当に長男も次男も申し分な
く育てくれました。

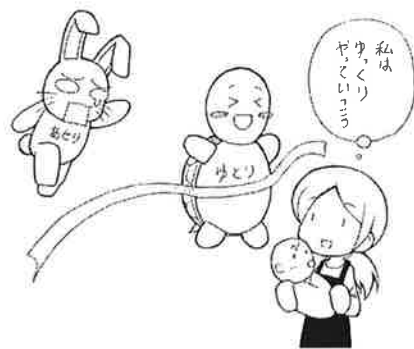
(K. H)

社会に出てからは、いろいろな雇用形態があります。
一般雇用（支援がない一般の就労）、障害者雇用（障害を伝えたい
での障害者枠での就労）、A型作業所、B型作業所などです。
「どれが良い」という事ではありません。その子に合った安心して
継続できる働き方を、周囲の支援者と一緒に考える機会があれば
よいですね。



メッセージを寄せてくださった方々が 主に活動されている会

- ♪ ほっとほっと（旭東公民館クラブ講座）
- ♪ 人・ふれあい・ひろば（光南台公民館主催講座）
- ♪ わたしの居場所さがし（中央公民館主催講座）
- ♪ なかよしネットワーク
- ♪ ふくふくクラブ
- ♪ ジョブサポート事務局そら
- ♪ NPO法人岡山県自閉症協会
- ♪ チューリップの会
- ♪ よつばの会



表紙・裏表紙・文中の絵：
NPO法人岡山県自閉症協会とほっとほっとのみなさま

